

STEP 3 見せ方の検討

- ・「どうしたら作品の魅力が伝わるのか」
アートディレクターを中心に
展示構成や展示方法を検討。
- ・作品と会場に合わせて額や展示台等を準備。
タイトル・作者名・説明等の
キャプションを作成。

POINT

一点一点大切にしながら来場者が作品
と向き合う空間をどう作るか考える。



何点をどう組み合わせどう展示するか、限られた展示空間で
どう配置するか、他の作品とのバランスは…
時にはタイトルや説明が表現を引き立てることもある



似顔絵の連作は壁面に



軽やかな作品は上に



数で時間の積み重ねやエネルギーを伝える



数で個性や作風を伝える



展示方法を変えて表現の幅を伝える

ずっしりとした織りは平置きに

column アートの芽①

作品を発掘するために

アートディレクター 中津川浩章

まずは、よく見る。感じる。すぐには意味化しないこと。「違和感」を大事にすること。既成の知識や過去の体験だから結論づけられないことです。それから次に、そこに何が表現されているのかを「読む」ことです。そして自分で感じたこと、見たこと、読みとった何かを、ゆっくりと言語化していきます。

そして言語化されたものをスタッフなど関係者と共有し対話していくことです。そうすることによって自分が感じたこと、考えていたことが対象化され、社会的な視線が育っていくことでしょう。作品に対する社会的な視線が育っていくと、自然に作品の意味や価値が自分の感性を通じてわかってきます。すると、展示する価値も的確に把握できるようになります。

また言うまでもなく、自分自身の感性を磨くことは大切です。いろいろな展覧会を見ること。たまには作品を購入してみたり。そうすることで審美眼を養い、作家をリスペクトし、作品の持つ客観的な魅力に気づくこと。そうしたことが障害者の作品理解に、また作品を介した対外的な人間関係においてもきつと役に立つでしょう。

